

エコエリアやまがた推進コンクール2022 優良賞（エコエリアやまがた推進協議会会長賞）

※掲載している情報は令和4年時点のものです。

応募者	JAみちのく村山すいか生産部会すいかGAP研究会		
※応募者が団体の場合 代表者（役職名・氏名）	会長 押切駿介		
所在地・連絡先	村山市楯岡北町1-1-1 TEL0237-55-6317		
事務担当者の部署・氏名	営農販売部 志村秀弥		
応募タイトル	「夏すいか日本一」産地のGAPの取り組み		
栽培品目	すいか		
経営面積 (うち、GAPに取り組む面積)	7.81ha (7.81ha)	構成員の 人数	4人
各種認証の取得状況等	<ul style="list-style-type: none"> ・山形県版GAP ・やまがたGAP第三者認証（9月認証見込み） 		
販路先	ふるさと納税等を検討中		
<p>1. 取組の背景・経過等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JAみちのく村山は、夏すいか出荷量日本一の「尾花沢すいか」の産地として全国に知られている。このため市場からはGAP認証を取得した「尾花沢すいか」を要望する意見令があった。こうした要望に応えるため、平成31年4月に部会内にGAP研究会（各支部役員16名）を設立し、山形県版GAP認証に向けた研修会や個別指導を受け、同年9月に山形県版GAP第1号の登録認証を受けた。 ・GAP認証を取得した結果、要望先への出荷につながった。 ・要望先への出荷後も、更なる良い農業を目指してGAPの取組みを継続しており、令和4年に新たに新設された「やまがたGAP」の第三者認証取得申請を行い、現地審査を受審している。 <p>2. 取組内容</p> <p>(1) 生産工程管理の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・GAPへの取組みを通して、次第に改善（PDCAサイクル）の重要性を実感したことで、現在では常に新たな視点による改善を意識するようになった。GAPの取組による改善例や、生産者の変化は以下のとおり <p>(食品安全)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬剤散布等で栽培に使用する水の安全性を意識するようになり、水源・水質を確認している。 ・堆肥の原料となる牛の餌を確認するなど、使用している資材を遡って確認するようになった。 <p>(環境保全)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物の処理について意識が高まり、被覆資材等の廃プラスチックについて専門の処理業者に出すなど、適正な処理を継続している。 <p>(労働安全)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・選果場の環境で4S（整理・整頓・清掃・清潔）を実行することで、生産者、作業員の安 			

全、スムーズな運営に繋がっている。(写真1、2)

- ・ほ場の危険な箇所を記した地図を作成し、危険な箇所を可視化ことで、農作業事故防止が徹底されて、GAPの取組みを開始した平成31年4月以降、農作業事故は発生していない。会員の中には側溝の危険性を再確認したことから、トラクターが安全に圃場に出入りできるよう側溝にブロックを追加する改善も見られる。(写真3)

(人権保護)

- ・雇用保険等の見直しや、雇用者へ危険な作業をさせないように注意している。

(農場経営管理)

- ・各書類(生産履歴、農薬台帳等)は、分かり易く、記入間違いが起き難い様式に随時改善している。(写真4)
- ・肥料、農薬の出し入れ帳簿を整備し見える化したことで適正な在庫管理が行われ、緊急の薬剤散布にも対応できるようになった。
- ・施錠できる農薬庫を設置し、安全な農薬管理が行われている。



写真1 危険個所の周知



写真2 ゴミの分別徹底



写真3 危険個所の周知

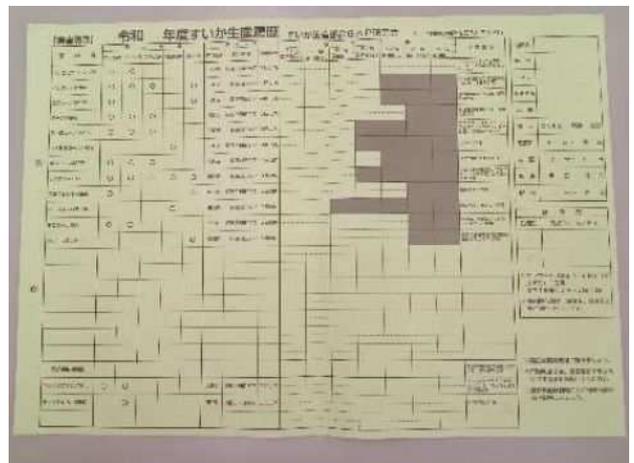


写真4 改善重ねた生産履歴

(2) GAPの継続に向けた取組

- ・事務局では、研究会設立前に生産部会役員を中心にGAPについて複数回研修会を重ね、ある程度GAPを理解して貰い研究会を設立した。また、認証後も、GAP推進のリーダーとなって活動して貰うために、個別対応も含め随時に支援している。
- ・研修会を開催(4月、12月)し、改善点及び帳簿や変更点等の確認を行っている。その他に個々の改善等取組みの意見交換会を行い、良いものは互いの経営に取り入れている。

(例 環境保全の観点から、肥料を即効性と遅効性の割合を変えたことにより、品質が向上し、窒素成分の投入量が減少した。その技術は徐々に普及している)

- ・研究会員以外の全すいか部会員 (R4. 368 戸) に対しても、生産工程管理チェックシートを配布し、講習会等でGAPの認識を深めている。

(3) 生産効率性の向上に向けた取組みとその効果

- ・小農具や資材等の置き場所、在庫量、片付けの方法をルール化したことで、探す時間が減少している。(写真5)
- ・会員が作業の改善を積極的に取り入れたことで省力化が進んだ。
- ・選果場の荷受け方法の改善(連絡体制の効率化)について提案し、利用者や担当職員への説明を徹底した結果、待ち時間が減少し、スムーズな荷下ろしが可能になった。



写真5 整理・整頓された道具

(4) 経営の改善に向けた取組みとの効果

- ・農薬の使用残が発生しないよう蓄積した記録を参考に、必要な量を推定して散布液を調整することで、農薬の使用量と農薬購入費が削減できた。
- ・在庫管理とPDCAに基づいた計画的な資材の購入により、経費が1～3%以上抑えられた。
- ・関係機関と連携しスマート農業事業に取り組み様々な実証を行う中で、作業手順等の見直しで作業時間が削減している。
- ・GAP普及の一環として、付加価値販売(ふるさと納税等)について検討している。

(5) 地域の内外への波及に向けた取組

- ・地元拠点に置くプロサッカーチームの試合で、GAPの認知度向上と尾花すいかのPRを目的にGAP認証すいかの試食を行った。(写真6)
- ・JAみちのく村山すいか生産部会GAP研究会が山形県版GAP認証第1号となった事で、GAPの認知度向上につながった。山形県版GAP認証第1号の認証取得は県内ニュース、新聞に掲載された。



写真6 スポーツイベントでの振る舞い

(6) 人材育成活動

- ・GAP認証を取得した生産者が講師となり、若手生産者へGAPについての研修会を開催している(年3回開催、研修会参加者延べ約50人)。

3. 活動の成果

- ・帳簿への記帳や整理整頓等で苦労もあったが普段の作業等に見える化したことで、これまで以上に、「良い農業」を目指すように意識が変化した。この取組みを通じ改善(PDCAサイクル)の効果が実感でき、現在では常に改善を意識するようになり、生産性や安全性、収益が向上した。GAPの取組は取引先への信頼向上、アピールポイントにもなっている。

(その他:会長のコメント)

GAPに取り組むことで意識が変わり、経営にとってはメリットがある。今後、より多くの人に取組んで欲しい。